

スライサーの新基準です。



Neo LinearSlicer
AT



Neo LinearSlicer
MT

DOSAKA EM CO.,LTD.
www.dosaka-em.jp



日本のスライサーです。

堂阪イーエムはスライサーと共に歩んでまいりました。

1980年、国産初の振動刃切片作製装置「マイクロスライサー」を開発し、当時デファクトスタンダードであった「ビプラトーム」を性能で圧倒しました。

2001年、横振動をDCモーターからリニアモーター駆動に改良した「リニアスライサー」を発表。不良振動である縦振りを $2\mu\text{m}$ 以下(最大横振時)にし、チャタリングを極力抑えたその性能は他社を凌駕し、追随させました。

ネオリニアスライサーは設計をシャーシから見直して**制振台を内蔵**。ボディも樹脂製から鋼板製に変更し、共鳴で起こる不良振動を極力排除しました。更に**一段上がった切れ味**を提供いたします。操作系は歴代DSKスライサーシリーズの単純明快な感覚を残しつつ、パネルデザインを刷新。オートモデルは制御プログラムもモダン化し、使い易さを向上させています。**ブレードホルダーは着脱式**にして使い勝手も向上させ、オプションで**滅菌対応**やブレード入射角(通常15度)の変更、ブレードストッパー追加も可能です。

スタンダードモデルは厚み制御が手動ダイヤル操作の**ネオリニアスライサー MT**。

ハイエンドモデルにはキー操作で切片を自動作成する**ネオリニアスライサー AT**。

二つのモデルでお届けします。

仕様		応用分野
型式	NLS-MT … マニュアルモデル NLS-AT … オートモデル	<ul style="list-style-type: none"> ・神経科学／神経化学 ・組織細胞化学
外寸	W345mm×D500mm×H240mm	<ul style="list-style-type: none"> ・生理学 ・薬理学
重量	35kg	<ul style="list-style-type: none"> ・毒性学 ・薬物動態学
入力	100V 2A	<ul style="list-style-type: none"> ・組織科学／細胞科学 ・電顕レベルの酵素組織化学
刃の振動数	50～100Hz	<ul style="list-style-type: none"> ・病理組織検体 ・植物全般(園芸／育種／病理など)
刃の振幅	0～2mm	<ul style="list-style-type: none"> ・昆虫学／応用動物昆虫学 ・再生医療研究分野
不良振動	標準 $1\mu\text{m}$ (最大 $2\mu\text{m}$)未満	<ul style="list-style-type: none"> ・各研究での培養 ・その他切片作製を要する所
前進速度	MT: 0～44mm/min, AT: 0～90mm/min	
後退速度	MT: 71mm/min, AT: 140mm/min	
上下移動幅	15mm(深型試料トレイ)	
薄切範囲	W30×D30mm	
特記	制振台内蔵 着脱式ブレードホルダー 着脱式アイスパス リトラクション機能 切片自動作製(NLS-ATのみ)	

DSKスライサー 各モデルの違い

マイクロスライサー(以下MS)がDCモーターからカムを介して横振りにしているのに対し、ネオリニアスライサー(以下NLS)は電磁石(リニアモーター形式)で横振りさせています。MSの機構では不良振動となる縦振りが出てしまいますが、理論上直線運動(横振り)のみのリニアモーター形式はシャーシやカバーの共鳴といった諸々の条件を入れましても「縦振り $1\mu\text{m}$ (最大振りでも $2\mu\text{m}$)以下」が可能になりました。(縦振り=不良振動=神経細胞の死滅)NLSシリーズでは制振台を内蔵し、テストデモでも「シナプスのレスポンス(活き)が良い」「不馴れな者でも綺麗に切れる」「LSより切れ具合がいい」といった評価をいただきました。また、MSで使うDCモーターは性質上使えば使うだけ劣化し、トルクが減っていきます。使用頻度にもよりますが、電磁石ではそういった劣化がございません。ただし、こういった振動する機器ですので「緩み」が出てきます。緩みに関しては再調整のみで出荷時に近い性能が得られます。元来、競合各社の同等品よりも基本性能の高いMSシリーズですが、更により良く切れるのがNLSシリーズとお考えください。

D.S.K 堂阪イーエム株式会社

本社 〒601-1123 京都市左京区静市市原町619-1 Tel.075-741-3069 Fax.075-741-3026

<http://www.dosaka-em.jp> E-mail: info@dosaka-em.jp